

## 2024\_1015「浅間山と幻の彗星（写真）」日々の理科 3722号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

彗星写真の撮影は「時間との勝負」です。彗星はいつでも見えているわけではなく、太陽や地球に近づいて、尾が伸びた時だけ、観望や撮影ができます。特に今回の「紫金山・アトラス彗星」のように、周期が何十万年という彗星の場合、もう二度と撮影のチャンスはありません。更に、日の出直前や日没直後にしか姿を見せないという制約もあります。

尾を長く伸ばした彗星は、地平線（または水平線）に近い位置にあるので、地上の風景をいかにうまく入れるかということが重要です。その為には、ある特定の観測地点で、何時何分頃にどの位置に見えるのか、およそ見当をつけておくことが大切です。2回目の撮影は浅間山を構図に入れたいと思い、浅間高原を俯瞰できる「二度上峠（にどあげとうげ）」に決めていました。

浅間山の右稜線に彗星が沈むと計算していたのですが、あいにくの曇り。同じ場所に撮影に来ていた天文ファンは次々とあきらめてしまいましたが、私は石垣島での南十字星撮影で「粘り勝ち」した経験から、「絶対にあきらめない！」と、彗星が沈む1分前まで撮影を続けました。そうして得られたのが、この写真です。雲は浅間の山頂も隠し、峠の頭上まで完全に覆っていましたが、一瞬だけ「宇宙への小さな窓」を開けてくれたようです。この日120枚も撮影した中で、彗星が写っていたのは、実にこの1枚だけでした。まさに「幻の彗星」でした。

(2024年10月14日／群馬県二度上峠)

